叶ち請人ニ而死罪事
右條々堅ニ相当者也仍如件
元和五年十二月廿日

寛永十四丁丑年五月

覚
人ニ賣買所法度之札元和五年
極月廿六日大極立申ニ而れより
以前人賣買出入ニ而ハ
ハ無之日ニ而後ニ出入ニ而ハ
出所法度のことく先ニ而ハ
寛永十四丑年五月

寛永十四丑卯年二月廿日

覚
中間小者ニ而履ニ給分ニ事
金高式ニ而式分又式ニ而ハ
下ニ而ハ御對ニ而ハ
但

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

分扶持方食物を以て
其儀恨思ひ居りしに
下草之筆論喉を見ひて
之御宮家お願ひ申し
十一季一切喉を以て出去候
令扶持之事之請人を以て
家業別し請人を立書と申ひ
下住其意に俱ひ人お對之喉を
出ひ候ひ而居ひ以上

平月廿九日

明暦三丁酉年十二月
一季居し本人当年し請人
を立給分同前之事年も下
住し其旨無論請人及吳俄
十一月御事其札を以持ひ日
雇人足に不可出自然於此月ハ
穿鑿之上之科し煙重ふより

下行罪科者也
酉十二月　李行

寛文五乙巳年十月
人請ニ立ル者ハ姓名人主并下
請人ニ擬手形ニ立ル請ニ立
下ル以前姓名人主下請人ニ成
ル請立ニ以下ノ事ヲ以テ
為出事也

寛文八戊申年十二月廿八日
覚
一雲居ニ茶堂ニ山共中習例年
二月二日雑為五哲先年酉年ハ
ヒノ年ニ請人手形ニ旗本ニ
初ハ三月五日ニ立ル意ニ茶及
其他紫於其ニ者請人是可
為出事者也
申十二月廿八日

寛文十庚戌年二月

去年未納之重一季
并三月廿日切之
當午ノ刻ニ未ノ
内ニ者ノ重ニ者
中ニ半

寛文三癸卯年

二季居之業出者中ニ半
ニ半ニ者ニ半ニ者ニ半ニ者

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

也

申十一月廿八日

延宝三乙卯年二月

覺

去年國々倍水付諸民及国
窮之習当卯年ハ長年無事之
者亦ハ諸代暮居可其事對
諸事可若之条十分其旨可抱置

也

卯二月

天和三癸亥年二月三日

覺

当四月於日光以法事
無画之一季居之歩行暮堂小者
中習小事之者年之諸人を以
切未無報去年之通可不可

下石置し若及遠俄にて其所
に其能方へ下達して又前のもの
同前事

貞二月三日

元祿十一四寅年十二月

奉公人に年季おゝ十年
至限り以後年季に限
り其に隱代に差に仕候
下為お對以事其所當者為
以上

十二月

元祿十二己卯年三月

定

人賣買し俄孫望樓四に石仕し
下人男女ともに年季十ヶ年を
限るといへ其向後年季に限無し

譜代之石抱其士下為お對決事之
習下有其旨者也
仍如件
元祿十二卯年三月　　本行

元祿十二己卯年三月

一　出替之本公人原仲も浪人之
差置申習數日來晦日之時
油斷申候之時下申候延之仕

りし下為ふ仰ひ事

一　家之義未觸其變本公人之請立
出し其主人之原數之内之
下請人之置詳記中出ひて之
上ケ中習數事

一　本公人之上請人下請人人之
其男之義十七歳以下之者其女之
分一切請人之中習數其出入
其之一所出其其右面格之請人

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

宝永三丙戌年三月十六

当年も一季奉公
罷有候者を吟味
用ゐ候事ニ而
候人を以奉公
候ハゝ其
年ハ
候ハゝ
ニ而
候

宝永三丙戌年三月十六

元

改

一 人ニ召抱候ニ付
而ハ
ニ而
候
候
ニ而
候
候
ニ而
候
候

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

寛永五戊子二月十九日

覚

一 奉公人出替之節近年人すくなく
相くらし不目出し由相聞
知行取之面々ハ知行取より
人夫銭唯給分ニ而無之也
百仕下中ハ但田畑持ニ而之抔
農業ニ外隙無之所之ハ
ニ而不相拘可曾ニ而
中ニ拘之ハ其之人所
詳きハ不成下ハ事ニ而百姓ハ
右之ハ下ニ而當ハ堂

子二月

寛永五戊子年二月十九日

覚

當年ハ一季ニ居之者直ニ置

夜ト存ゼラルヽ事ヲ順を出し
候ニ用ヒ候ニ去達シ通シ給ハ
ニ而ニ請人を以テ其置ニ前
別ニ請人を下立替ヒ中ハリ
下候ニ意ニ尤ニ對ニ順を出
候ニ下ニ如何ニ以来以上
子二月

去八月所中人宿ニ組合ニ申
付ニ其親類ニ而ニ同国ニ好ク
言ニ人ニ或ニ請判ハ以ニ
ハ人宿ニ外ニ而ニ無ニ合ニ弱
以所近ニ欠ニ落ニ之ニ書所ニ
面ニ付ニ分ニ組合ニ請人ニ當ニ
其ニ無ニ多ニ分組合ニ外當ニ
数多残欠落ハ平意親類同ニ
ト申ニ本ニ組合ニ離ニ其残人

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一

東公人請ゑ以後人君は此時鐘
以付在ゝより東公に来ゑ之の其
殘藏義に在付在所に陶日候
見し由ゑ中に東公人お應し
下請見し以て諸判に付ゑ事
有し首中後以通如東公人に
候ゝ聖会に沈請人何方にて
ゑ縁手沈弟殘請判東公人ゑ
支給に付ゑ事

正清元辛卯年三月

東公人ゝ上請人下請人人主
ゝ搭七葉以下ゝ之の如し分一
切請ゝ之中習ゑ其右ゑ相ゝ
請人ゝ出入見し詳出ゑ之上中
習ゑ事

京保四己亥年八月十四日

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

人に掛り度旨願出ハ其對
を格別に役所分ハ中付會議
に事

一 無之に近く頃之候家請人重々
存知居に相當に有之候遂全
議事上落着ハ其請人に仕置
下中付事

一 所人之に仕候家に近く頃才
之儀も有之候下ハ中付事

一 有之家請人致候家に有之も
請人候家以家之家主方へ願
置其家に役所にも所相當しハ
請人之下濟金通料其家主
に下中付事

但家主候者之店請人
掛り度旨願出ハ其對
ハ格別に役所ハ中付會議
事

一

一

一

一

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

加判ニ而及ニ事

一 門ニ掛ニ候品ニ付ニ通ニ事
付ニ右門ニ掛ニ候ニ当人重ニ
住所見在元家ニ出入ニ掛リ
以テ其当人身代ニ至ニ而
中付ニ当家ニ入ニ金子中付置ニ
以上

一 請人ニ於テ又ニ而ニ仕
置成ニ其ニ目ニ家ニ致ニ結判ニ
ニ而及ニ主人ニ本公人ニ對ニ而ニ
非本公人ニ給金借金等ニ候
有請人又ニ家ニ又ニ組掛ニ
屋敷方ニ当置滑方中付事
堅ニ無用ニ筈ニ請人帰於ニ
其主人ニ以後ニ而ニ所ニ次第
ニ増ニ以テ此味ニ上意
度ニ事ニ以事

一 本公人出入ニ非請借金買掛ニ

…ル事ヲ…
…話ス人ヲ…
…ヲ…
…ヲ…
…

一　おゝ一寸きゝ人（而ゝ）時
ハ不圖ゝ花見等
被誘之義ハ口ゝ
ゝ遠ゝ
ゝ人ハ
在候ゝ
一　おゝ一寸きゝ人ゝ
ゝも一寸きゝ
ゝ人の
ゝ
ゝ
ゝ

立下ハ請人ニ立ル請ニ立ル事
前下請ニ立ルハ急度ニ申付

享保七壬寅年三月十六日

酒程ハ刀銘差ニ人ヲ
庭附ニ立ル事

一 其主人ヨリ銘ヲ置ニ庭ニ附ニ立ル
平論ハ弟ニ療治代ハ出ニ申ル
療治代ハ薩摩ニ下ニ刀銘指ニ
上酒程人ヲ主人ニ出ル事

但立上ハ刀銘差ニ庭ニ附ニ
立ル事ニ申ル事

一 右療治代庭ニ多ク如ニ上ニ
中小性辨ニ出シ銀二枚請ニ
金三ヶ月足煙中習ハ銀壹枚為
指出ニ申ル事

酒程ニ人ヲ主ニ打擲ハ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

以習此順部屋敷其人ニ
より下ニ中付事
一人宿し候所ニ組合ニ見ニ以習
事新ニニ云て云中合以事
戌二月

享保十四庚戌年
東公人宿し候ニ在所觸

一 近来ハ未ニ候ニ[illegible]
以人し給ニ金前ニ云通言事
ニ見し以早意請人人主宿其
ニ仕方ニ持ニ云東公人ニ云ハ
ニ入用ニ取ニ事ニ以故ニ候ニ
事ニ云迯欠度ニ出成多ニ
事ニ屋ニ依し此度以味ニ上
人宿組合中付ニ習事ニ向當ニ
ニ三回拾人ニ組合以ニ有ニ通
急度ニ取事ニ中ニ

従若當ニ衣類ヲ布施スヘキ
ノ義務アル旨ヲ通告スルノ
外ナク若シ強テ其ノ履行ヲ
迫ルトキハ其ノ強迫ハ甲ノ
申込ヲ拒絶シタルモノニ
シテ甲ハ其ノ申込ヲ撤回
スルヲ得ルモノトス
右ノ如ク判例ハ従ノ絵
ヲ買ハサルヲ以テ甲ノ
申込ヲ拒絶シタルモノ
ト為シ一ヶ月ノ期間ヲ
定メテ従ノ絵ヲ
甲ニ引渡スヘキ旨ヲ
通告シタルヲ以テ
甲ノ申込ヲ撤回
シタルモノト為シ
タルモノナリ

ニ付テハ甲ハ之ヲ
履行スルノ義務ナキヲ
以テ甲ハ其ノ申込ヲ
撤回スルヲ得ルモノ
トス
右ノ如ク判例ハ
甲ノ申込ヲ拒絶
シタルモノト為シ
一ヶ月ノ期間ヲ
定メテ従ノ絵ヲ
甲ニ引渡スヘキ旨ヲ
通告シタルヲ以テ
甲ノ申込ヲ撤回
シタルモノト為シ
タルモノナリ

一 時効ノ援用ハ裁判
所ニ於テ為スヘキ
ヲ以テ裁判所ニ
於テ訴訟ノ当事
者ニ非サル者
ハ時効ノ援用
ヲ為スヲ得ス
例ヘハ債務
者ノ為メニ
保証ヲ為シ
タル者ハ
時効ノ援用
ヲ為スヲ得
ス
時効ノ援用ハ
裁判所ニ於
テ為スヘキ
ヲ以テ裁判
所ニ於テ訴
訟ノ当事者
ニ非サル者
ハ時効ノ援
用ヲ為スヲ
得ス例ヘハ
債務者ノ
為メニ保
証ヲ為シ
タル者ハ
時効ノ援
用ヲ為スヲ
得

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

令ニ人主ヘ至リ度旨敬之事
所ニ候ハ人主ニ至ニ度ハ
下申付ニ也武士方奉公人人
主ニ成置ハ分ニ右ニ通ニ事
付ニ

元文三戌年

寺人宿ニも奉公人請ニ立ニ其他
人ニ勿論親類ニ之ニ十人ニ
多ク請ニ立ニ事ニ者ニ先ニ達ニ度ニ

お解ニ変ニ以不持ニ族ニ通ニ
ニ別ニ親類他人ニ立ニ別
人数多ク請ニ立ニ様ニ不
而至極ニ早意ニ敬主ニ所ニ
故ニ事ニ向後敬主ニ急
度お段下申ニ若此以後十人ニ
請判ハ以可見度者ニ通
ハ其ニ組合ニ人宿ハ仕置ニ
中付敬主ニ勿論ニ不ニ又人

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

宝暦八戊寅年十月十日
少出信濃守殿以後
以国付ニ
上野増上寺山内平外武家方
家来ニ無之ニ新屋ニ敷ニ
茶悪業者入込居以後者ニ
手掛リ也ニ見ニ居リ濃紙
改組ニ者善成改以筆ニ
右之銘蒙ニ下ニ違ニ是ニ

明和七庚寅年十月廿日
松平右近将監殿
酒井石見守殿
以後
以国付ニ
暇差出ニ家来勤以内ニ給金
滞ニ銭中ニ立ニ古ニ銭ニ手ニ出ニ
出ニ行ニ本行所ニ見ニ而ニ上
事ニ日ニ下ニ以後ニ意ニ
右之法向ニ蒙ニ下ニ違ニ是ニ

安永三甲午年三月三日

酒井石見守殿以後

以目付之

武士屋敷小姓奉公人新屋子ト

中停輩ニ至ル者を指置ニ其

内ニ其外屋敷ニ於遊興致シ

以者又ハ奉行所ニ尋ヒ其の

も至ル以右躰ニ其の新屋ニ

ニ於テ情実も以テ以旨あり

并向後武士方屋敷ニ新屋ニ

於遊所味ハ其他之の一切差置

中事也

右之新先年度ニ於解ニ変年月

も経ニ事故猶又此者屋敷ニ新

屋ニ致所味大躰ニ後ニ其ニ相ニ付

以来其猥ニ於此相望ニ申付

三月

右之通ニ於解ニ

安和八己酉年六月
石見守殿御後
山田付に

徒足煙陸人手迫り中習其下写
下家若老中若年歯中其外門
家或は佳筆ハ言無礼法外ニ付
則ニ候無之様ニ家ニ度ニ言
仰出候ハ近来又は猥ニ相法外
ニ加ヘ所ニ候其ニ申相守

不便ニ日深此以後古躰ニ候無
之様厳敷ニ下ニ中付ニ若不相用
者も有之ニハ以て相礼急度仕立
下ニ中付ニ継月庭日庭ニ之の
ニ入りとも雇中ニ家来同様
ニ事ニ日習中付ニ不相用旗幟
ニ而ハ是又家来同様ニ中
ニ中付ニ去ル七年相達ニ通所
来行同前も差出ニ習自分ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

而其論告主人に中達候を関
八郎に外私館にて分を其社事
行其意國事行其所場にて
其事行ニ於テ決計関八郎并
関八郎外ニ其も所料而ニ分ハ所
甚定事行并関八郎ニ外所
料所所代官陳屋ニ分ハ
所代官ニ於テ計請入呼出給金
官立ニ於人に其後は筈ニ

右之儀ニ於ケル所ニ命ニ當ニ一ツ所達
其日西丸御用付ニも下ニ其面達ニ

十月

其所八ツ申年四月廿七日
本多彌三郎殿所後
所国付ニ

一 御ニ於ケル御出ニ面倍立場廣ニ
於ケル御出ニ候ニ於ケル樣ニ

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

寛政三辛亥年十二月十
松平伊豆守殿江渡
大目付

[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

違事

手号不知

一 出替し奉公人無之候も宰人之為
差遣中間数は来候日数之無能所
果し其付下中は延々仕候して
為不便候事

一 家々も家所は通奉公人し請々
立出し其主人之屋数之内

為下請人宿置詳語中出りし
宿置中間数事

一 奉公人之上請人下請人人主
其々男ゆゑも捨七歳以下之家
并女し分一切請人之宿中間数
は出入其し不出とも右面相
し請人宿所し詳語宿上中間
数事

一 家々奉公人家請々立所家の儀

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

卯
115
1

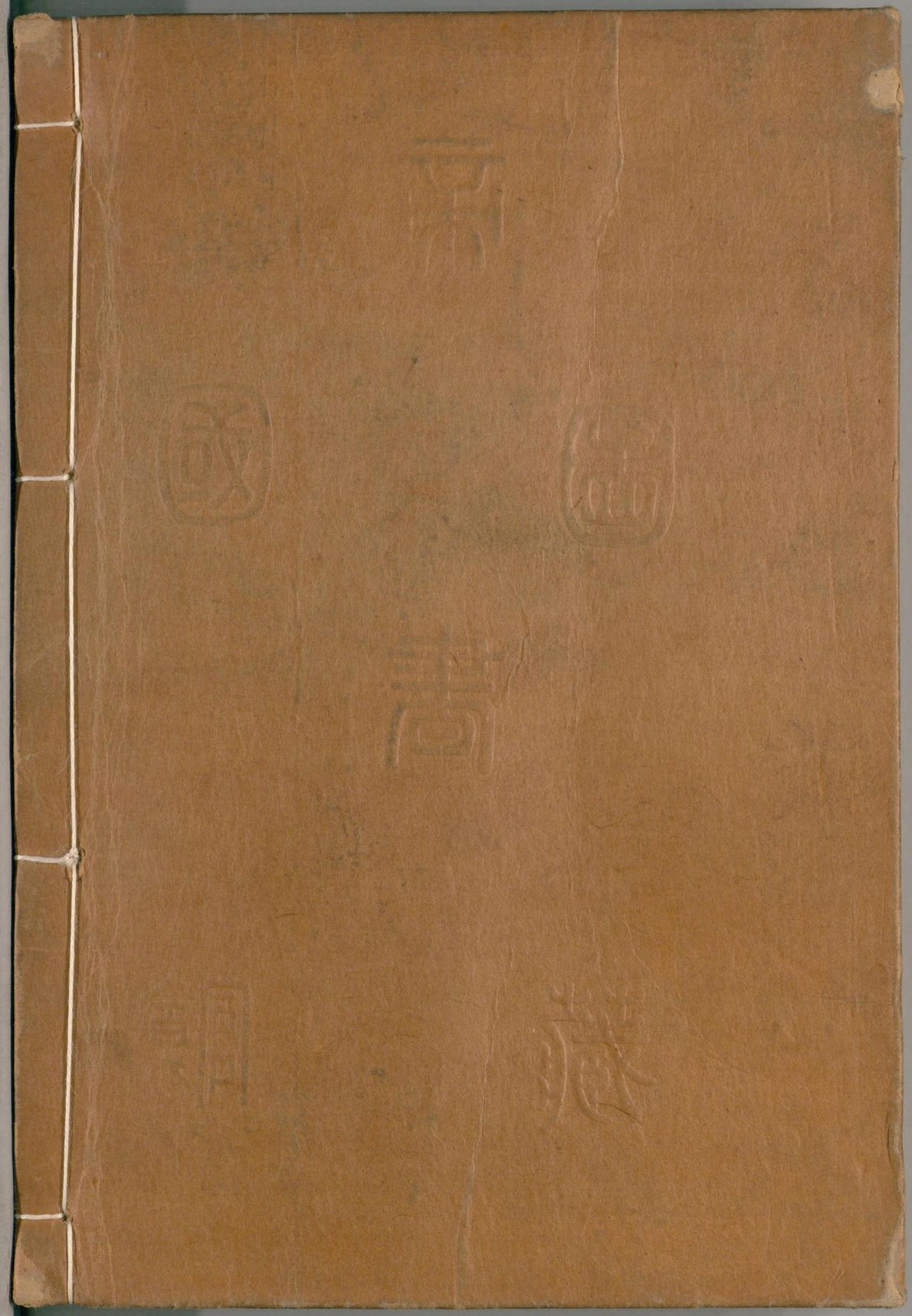
国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

卯
合66
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用